

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00491

研究課題名（和文）山田流箏曲における近世邦楽との関係に関する研究～「浄瑠璃物」の作品を中心に～

研究課題名（英文）Research on the relationship between Yamada style koto music and early modern Japanese music - Focusing on "Jorurimono" works -

研究代表者

萩岡 松韻 (Hagioka, Shouin)

東京藝術大学・音楽学部・教授

研究者番号：30376925

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、山田流箏曲の中でも特に浄瑠璃物について、近世邦楽、特に一中節、河東節等の三味線音楽との関係を文献研究から明らかにした。過去の楽曲の録音、楽譜資料等の演奏表現に関する調査から、その音楽的特徴を整理して、近年演奏の機会が少なくなっている対象曲を次代に継承するために、楽譜を作成しアーカイブ化した。なお、研究対象にはこれまで取り組めなかった山田流箏曲の作品も含めた。研究は主に伝承者への聞き取り、SPレコード等の貴重録音に残る演奏の調査、伝承者からの楽曲の伝授と演奏保存を行い、その成果を精査して楽譜データ化し、若手演奏家へ楽曲を伝授し、公開成果発表演奏会を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の実績は、過去に記録された音源の収集、出版された楽譜、未公刊の楽譜の収集を行い、実際の伝承者との演奏を比較し伝承の正確さ、その特徴、演奏法、演奏表現（歌唱と器楽）を整理して、新たに楽譜化を行なった。これまで箏曲の楽譜は、その芸系の家元が学習者の学習および暗記の手助けのために出版してきた。出版された楽譜の多くには稀曲・秘曲といわれている曲はほとんど含まれておらず、同時に、そうした曲を伝承している実演家の高齢化により伝承そのものが危ぶまれている状態であるが、これらを若手演奏家へ伝授できたことで、伝承の正確性を次代へと繋いでいくことができると考えている。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the relationship between Yamada-school koto music, especially Jorurimono, and early modern Japanese music through literature research.

By studying the performance expressions in past recordings of songs and in sheet music, we clarified their musical characteristics and created and archived music scores of those pieces that have been rarely performed in recent years, in order to pass them on to the next generation. The research target also included pieces of Yamada-school koto music that had not been studied before. The research involved interviewing successors, investigating performances that were preserved in precious recordings such as SP records, having the successors teach through performance while also recording the performances, investigating the results and converting them into sheet music data, and then teaching the songs to young performers. We then held a concert by the students to present the results to a general audience.

研究分野：芸術実践論（山田流箏曲）

キーワード：山田流箏曲 楽譜化 邦楽 浄瑠璃物 日本音楽 アーカイブ 古典芸能

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで箏曲の楽譜は、その芸系の家元が学習者の学習および暗記の手助けのために出版してきた。また、楽曲を録音した音源等も学習者の模範演奏となるよう、芸系の家元をはじめとして多くの実演家が行っている。従って「直接習うことで細部の演奏表現が理解できる」という性格を持つ。また、出版されている楽曲の多くには稀曲・秘曲といわれている曲はほとんど含まれておらず、同時に、そうした曲を伝承している実演家の高齢化により伝承そのものが危ぶまれている状況がある。出版され販売される古典の楽譜がある一方で、微妙なニュアンスを記すことが難しい古典曲について、その伝承の正当性を知るのには、伝承者に直接習い記録をすることであろう。今後、ますます楽譜にのみ頼り演奏されていくであろう古典作品のあり方について、伝承者は危惧をしている。

本研究においては、過去に記録された音源の収集、出版された楽譜、未公刊の楽譜の収集を行い、実際の伝承者との演奏を比較し伝承の正確さ、その特徴、演奏法、演奏表現（歌唱と器楽）を整理して、新たに楽譜化し演奏することで、伝承の正確性を次代へと繋いでいくことができるのではないかとこの仮説のもので研究を進めた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の4点に集約される。

(ア) 楽曲の可視化と記録

伝承者の演奏を録音保存し、楽譜化に際しての微妙なニュアンスを記録すること。

(イ) 音源の収集

主に SP レコード等に残る山田流箏曲家及び関連する演奏音源を収集する。

(ウ) 演奏成果発表会を開催する

貴重な古曲を次代へ継承するために、得た情報を元にして次代を担う若手演奏家を主な対象として指導を行うこと。

(エ) 上記(ア)～(ウ)の成果に基づいて、「浄瑠璃物」を含む山田流箏曲の稀曲について、弦名譜での楽譜化を行うこと。

上記(ア)～(エ)は、伝承者に直接指導を受けなくては本質的な部分を習うことができない地歌箏曲および山田流箏曲界においては、これまで本研究チーム以外に成し得なかったことであり、これまでの研究では膨大な伝承の極一部のみを可視化と記録しただけである。また、高齢となっている各芸系の伝承者に芸談を聞くことは、貴重な音楽文化を記録保存することにもつながるが、数度のインタビューでは明らかにできない部分もあり、今後の山田流箏曲および地歌箏曲の古典演奏研究において学術および演奏の上でも意義あることと考えた。

3. 研究の方法

本研究は、1 文献調査による山田流箏曲の浄瑠璃物の目録および楽曲解説の作成、2 曲に関連した貴重レコード・音源・楽譜の収集楽曲のアーカイブ（音源化・楽譜化）、3 公開講習により次代を担う若手演奏家への指導を行い楽曲の伝授を通じた演奏研究、4 成果発表会（演奏研究）を開催し演奏の記録をするによって研究を進めた。

4. 研究成果

山田流箏曲の「浄瑠璃物」に関して、文献研究に基づく成果

(1) 「浄瑠璃物」という分類について

山田流箏曲には、浄瑠璃（河東節、一中節、富本節）から移曲された作品がある。また、浄瑠璃

との掛合曲もある。それらは「浄瑠璃物」と呼ばれている。

「浄瑠璃物」に該当する分類は、『山田流箏歌八葉集』(箏曲八葉会、大正15・1926)にあり、同書では「浄瑠璃曲」と表記し、「じょうりもの」と読ませている。「浄瑠璃曲」について、同書では「浄瑠璃曲を箏曲に移して弾き始めしは徳川幕府時代に三絃曲河東節、一中節、など新に興り専ら市井の間に行はれしも当時貴族間には単に三絃曲にては行はれず之は楽器歌曲共に箏より三絃は高雅なる点に於て大に劣りたるものとして取り扱はれし故なり然れども貴族間にも此浄瑠璃曲如何なるものならんとの心より所望の向多々ありしより此を箏曲に移して聴聞に供せしとなん」と説明する(旧漢字を常用漢字に置き換え、適宜、空白を追補)。いっぽう、「浄瑠璃物」という表記を用いた文献には『山田流箏曲史』(山田流箏曲協会、昭和48・1973)がある。同書では「浄瑠璃物」を「本来、江戸の浄瑠璃曲であったものを山田流箏曲に移曲したものと説明した。「浄瑠璃物」と同じ意味で使われる分類には「移曲物」もある。『撫箏唱歌集成』(四代目萩岡松韻、平成2・1990)に記されている。現行の山田流箏曲の伝承では「浄瑠璃物」「移曲物」の両者を使っているが、本研究では「浄瑠璃物」の呼称と表記を用いることにした。

(2)「浄瑠璃物」に含まれる曲目について

「浄瑠璃物」については、『山田流箏歌八葉集』に11曲の歌詞、『山田流箏曲史』に14曲の曲名、『撫箏唱歌集成』に5曲の歌詞が収載されている。それらを参照し、現行の伝承曲なども精査して、本研究では全16曲の「浄瑠璃物」の曲目一覧を作成した。曲目一覧は、令和5年9月9日に開催した科研費研究成果会のプログラム解説に「【参考資料1】山田流箏曲の浄瑠璃物」として掲載し、その後、曲目や情報を追加した修正版を作成した。

「浄瑠璃物」に含まれる16曲の内訳は、河東節からの移曲が《河東七草》《三番叟》《常陸帯》《ゆかりの江戸桜》の計4曲、一中節からの移曲が《賤機帯》《猩々》《松襲》《松の羽衣》《吉原八景》の計5曲、富本節から移曲が《桜七本》《富本松風》《六玉川》《角力の段(相撲)》の計4曲、掛合物が《邯鄲(河東・一中掛合)》《源氏十二段浄瑠璃供養(河東・一中掛合)》《竹生島(一中・箏歌掛合)》の計3曲である。それらについて、原曲の本名題、原曲の作曲者、原曲初演時の太夫と三味線方、原曲の初演年、山田流への移曲者などの情報を整理した。

「浄瑠璃物」の現在の伝承状況は、曲によって異なり、山田流各派によっても異なる。令和5年9月9日の科研費研究成果会では、現在は演奏機会が減っている作品、特定の派に伝えられている作品についても確認した。

(3)「浄瑠璃物」の歌詞や楽譜を掲載する文献について

山田流箏曲の伝承曲を収録する江戸時代の文献には『屋万田能穂並』(寛政12・1800)、『山田検校楽譜集(仮称)』(文化6・1809)、『吾孀箏譜』(文化6・1809/文政7・1824/天保10・1839)などの諸本が伝えられるが、江戸時代の山田流箏曲の歌本や譜本に「浄瑠璃物」の歌詞や楽譜は収録されていない。明治時代に出版された『吾孀箏譜二編』(明治15・1882)、『ことうた通解』(井上友吉著、明治39・1906、明倫館)、『吾孀箏譜三編』(明治43・1910)、『撫箏唱歌集』(明治37・1904/明治38・1905/明治43・1910)、『山田流箏歌詳解』(井上民子著、実業之日本社、明治45・1912)にも、「浄瑠璃物」の歌詞は掲載されていない。

大正時代になると、『山田流箏唄通解』(博信堂、大正10・1921)に《河東七草》《三番叟》《常陸帯》《賤機帯》《松の羽衣》《源氏十二段浄瑠璃供養》の歌詞が紹介され、前述のように、『山田流箏歌八葉集』には「浄瑠璃曲」に分類する11曲の歌詞が掲載された。

「浄瑠璃物」の楽譜は、現代にいたるまで、出版例は極めて少ない。『山田流箏のかどみ』(大正5・1916、博信堂)の《源氏十二段浄瑠璃供養》が古く、『伊藤松超・高尾松蓉共編山田流箏曲三絃対照楽譜』に《六玉川》がある。なお、《六玉川》については、原曲の富本節《玉川》の

五線譜が『近世日本音楽集』（『世界音楽集』第25巻、昭和6・1931。田中正平採譜）にある。

本研究では《三番叟》の楽譜を作成した。

（４）「浄瑠璃物」の原曲の浄瑠璃と移曲の経緯について

「浄瑠璃物」には、河東節、一中節、富本節からの移曲と、河東節や一中節との掛合物が含まれる。河東節は江戸太夫河東（十寸見河東。1684～1725）が1717年に創始した江戸の浄瑠璃、一中節は都太夫一中（1650～1724）が17世紀末に京都で語り始め、後に江戸を中心に広まった浄瑠璃、富本節は都太夫一中の弟子であった宮古路豊後掾が語った豊後節系統の江戸の浄瑠璃で、富本豊前掾（1716～64）が1748年に創始した。河東節、一中節、富本節ともに、山田流箏曲の流祖、山田検校（1757～1817）の時代にすでに、江戸で流行していた三味線音楽である。

山田流箏曲として浄瑠璃物の作品が演奏された時期は個々の作品により異なっていたと推測できるが、移曲者として伝えられる人物には、流祖直門のスマ女、流祖直門のきた女、二代山木検校（1800～1854）、初代中能島松声（中能島検校。1838～1894）、四代山木千賀（1846～1921）、初世高橋榮清（1868～1939）、三代中能島松仙（1893～1928）がいる。スマ女ときた女の生没年は不詳であるが、流祖直門であるとすれば、スマ女の移曲と伝えられる《源氏十二段浄瑠璃供養》、きた女が箏歌を作曲したと伝えられる《竹生島》は江戸時代もしくは明治時代前半には、山田流箏曲として演奏されていた可能性が高い。また、二代山木検校の移曲と伝えられる《賤機帯》《吉原八景》は、江戸時代の移曲と推測できる。

移曲が行われた経緯に関連する記述には、前掲の『山田流箏歌八葉集』の説明がある。

データ化した楽譜について

楽譜化については、引き続き浄瑠璃物及び箏組歌の楽譜の作成に取り組み、加えて、これまで楽譜化できなかった曲についてもデータ化を行ない、13曲のデータ化と12曲の出版を行なった。楽譜の制作にあたっては、委託者と協働しつつ出来上がった楽譜を活用した、3回の公開成果発表演奏会において検証しつつ成果を発表し修正を行なった。また、公開成果発表演奏会を通じて、楽曲を若手演奏家に伝授を行い、これをもって楽曲の伝承とした。

以下に作成した楽譜とその元となった五線譜楽譜（二代萩岡松韻著）と弦名楽譜（四代萩岡松韻著）、そしてデータ化した弦名楽譜の一部を示す。

図1 二代萩岡松韻著の五線譜楽譜（浄瑠璃物《翁三番叟》）

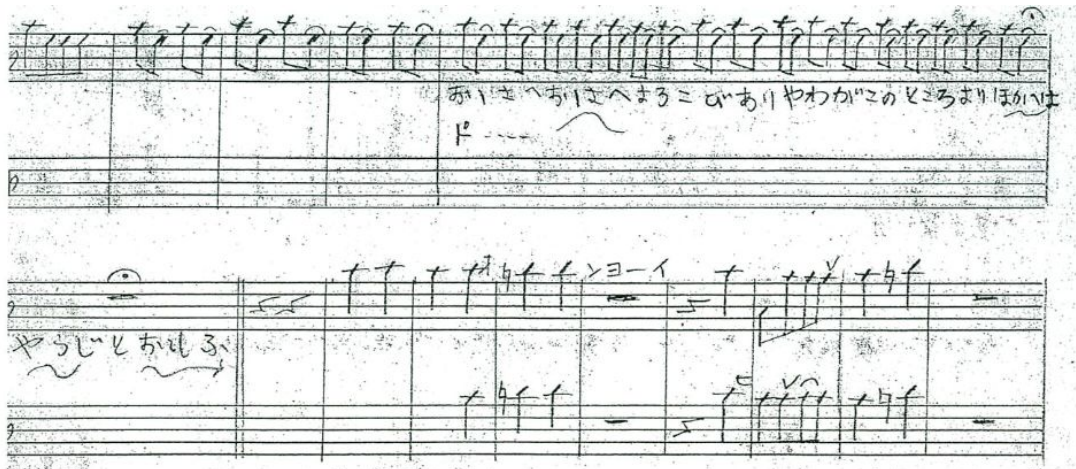


図2 同四代萩岡松韻著の手書き楽譜（図1と同一部分）

図3 今回データ化した弦名楽譜 (図1と同一部分)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計50件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 萩岡松韻他
2. 発表標題 「浜の松風」
3. 学会等名 NHKFM放送：邦楽百番 選
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 萩岡松韻他
2. 発表標題 「蓬萊」
3. 学会等名 NHKFM放送：邦楽百番 選
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄 箏：萩岡松韻 ・ 唄 三絃：萩岡由子
2. 発表標題 山田検校作曲・四代萩岡松韻復曲《かさのうち》
3. 学会等名 令和5年度第1回成果発表会「江戸と上方の粹II」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 箏：萩岡松柯 / ・ 唄 三絃：長谷川慎 ・ 胡弓：川瀬露秋
2. 発表標題 湖出市十郎作曲《黒髪》
3. 学会等名 令和5年度第1回成果発表会「江戸と上方の粹II」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄：萩岡松韻 ・ 箏：萩岡由子 ・ 三絃：萩岡松柯
2. 発表標題 山田検校作曲《夏》
3. 学会等名 令和5年度第1回成果発表会「江戸と上方の粹II」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄 三絃：長谷川慎 ・ 胡弓：川瀬露秋
2. 発表標題 鶴山勾当作曲《ゆかりの月》
3. 学会等名 令和5年度第1回成果発表会「江戸と上方の粹II」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄 箏：萩岡松韻、萩岡由子 ・ 唄 三絃：萩岡松柯
2. 発表標題 初代山登検校作曲《撫子》
3. 学会等名 令和5年度第1回成果発表会「江戸と上方の粹II」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：萩岡松韻、萩岡松柯、萩岡由子・唄：今藤政子・笛：福原徹彦
2. 発表標題 千野喜資作詞・萩岡松韻作曲《白き花》
3. 学会等名 NHK FM放送 邦楽百番
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：萩岡松韻、萩岡由子・唄三絃：萩岡松柯・尺八：青木鈴慕
2. 発表標題 中能島松声作曲《雨夜の月》
3. 学会等名 NHK FM放送 邦楽百番
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄：萩岡 松韻、上原 真佐輝、萩岡 松柯・箏：田中 奈央一・三絃：松永 忠一郎
2. 発表標題 初世 江戸半太夫 作曲（伝）《翁三番叟》
3. 学会等名 令和5年度第2回成果発表会「山田流箏曲における 近世邦楽との関係に関する研究『浄瑠璃物』の作品を中心に」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川慎
2. 発表標題 峰崎勾当 作曲《翁》
3. 学会等名 令和5年度第2回成果発表会「山田流箏曲における 近世邦楽との関係に関する研究『浄瑠璃物』の作品を中心に」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：萩岡 松韻・唄三絃：萩岡 松柯
2. 発表標題 初世 山登松和 作曲《新七草》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：_岡園美咲・唄三絃：萩岡 由子
2. 発表標題 初世 山登松和 作曲《_行》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：伊藤ちひろ・唄三絃：田中奈央一
2. 発表標題 山田検校作曲《花妻》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：萩岡由子・唄三絃：萩岡松柯
2. 発表標題 山田検校作曲《明烏》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：佐々木千香能・唄三絃：朝香麻美子
2. 発表標題 山田検校作曲《夏やせ》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：三古谷裕 ・ 唄三絃：上原 真佐輝
2. 発表標題 山田検校作曲《布袋》
3. 学会等名 令和5年度第3回成果発表会「古曲を聴くVI」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄箏：萩岡松韻、萩岡松柯 ・ 唄三絃：山登松和 ・ 笛：福原徹彦
2. 発表標題 山田検校作曲《千箱の玉章》
3. 学会等名 NHK FM放送 初春邦楽特選
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 唄：萩岡松韻、東音 味見純 ・ 箏：田中 奈央一 ・ 三味線：松永 忠一郎 ・ 小鼓：桜間彦十郎 ・ 笛：福原徹彦
2. 発表標題 初世 江戸半太夫 作曲（伝）《翁三番叟》より《三番叟》
3. 学会等名 萩岡松韻退任記念演奏会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 舞：井上八千代 ・ 唄箏：萩岡松韻 ・ 三絃：萩岡松柯
2. 発表標題 山田検校作曲《夏やせ》
3. 学会等名 萩岡松韻退任記念演奏会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 能：観世 清和、藤波重彦、浅見重好、清水義也・唄：萩岡 松韻・箏：鈴木厚一・三絃：萩岡 松柯・笛：福原徹彦
2. 発表標題 謡曲・山田流箏曲 掛合《葵の上》
3. 学会等名 萩岡松韻退任記念演奏会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 唄：萩岡松韻・ピアノ：迫昭嘉
2. 発表標題 山田流箏曲・ジェラルプーレ編曲《Rakubai》
3. 学会等名 萩岡松韻退任記念演奏会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 唄箏：萩岡松韻他62名
2. 発表標題 萩岡松韻作曲 組曲《花の寺》
3. 学会等名 萩岡松韻退任記念演奏会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯、渡辺岡華、萩岡由子
2. 発表標題 長恨歌曲
3. 学会等名 山田流箏曲協会定期演奏会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：鳥居名美野、山登松和、萩岡松柯、竹内鈴白、青木滉一郎、金野鈴道
2. 発表標題 松風
3. 学会等名 鈴慕会 追善会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：青木鈴慕、鈴慕会、萩岡松柯、萩岡由子他
2. 発表標題 愚ふ草
3. 学会等名 鈴慕会 追善会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯、萩岡由子他
2. 発表標題 秋の花妻
3. 学会等名 (公社)日本三曲協会春季名流演奏会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯、萩岡由子、福原徹彦、堅田新十郎他
2. 発表標題 播磨八景
3. 学会等名 NHKFM「邦楽百番」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯
2. 発表標題 花の鏡
3. 学会等名 NHKFM「邦楽百番」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：清元栄吉、堅田新十郎、福原徹彦、川瀬露秋他
2. 発表標題 夜半の鐘
3. 学会等名 NHKFM「邦楽百番」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：今藤政子、藤原道山、萩岡松柯、萩岡由子、朝香麻美子、田中奈央一
2. 発表標題 明石の恋
3. 学会等名 NHKFM「邦楽百番」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：東京藝術大学音楽学部邦楽科
2. 発表標題 「火宅」葵上より
3. 学会等名 和楽の美「源氏物語」葵上・賢木の巻
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：富山清琴、富山清仁、青木鈴慕
2. 発表標題 東獅子
3. 学会等名 日本の響
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：三好荒山、萩岡松柯、萩岡由子
2. 発表標題 近江八景
3. 学会等名 三好荒山記念演奏会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯、萩岡由子他
2. 発表標題 松竹梅
3. 学会等名 (公社)日本三曲協会秋季名流演奏会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：川瀬露秋、萩岡松柯、萩岡由子
2. 発表標題 長恨歌曲
3. 学会等名 第30回ふくおか県民文化祭2022協賛事業、第29回賢順記念全国箏曲祭
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：山下紗綾、萩岡由子
2. 発表標題 手枕
3. 学会等名 江戸と上方の粋
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯
2. 発表標題 竹いかだ
3. 学会等名 江戸と上方の粋
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄 萩岡松韻 共演者：長谷川慎、川瀬露秋、萩岡松柯
2. 発表標題 縁の綱
3. 学会等名 江戸と上方の粋
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：山勢松韻、山登松和、福原徹
2. 発表標題 寿くらべ
3. 学会等名 NHK Eテレ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：鈴木厚一、岸辺美千賀、川瀬庸輔、萩岡松柯
2. 発表標題 雨夜の月
3. 学会等名 国立劇場主催・邦楽名曲選
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：萩岡松柯、萩岡由子
2. 発表標題 江の島曲
3. 学会等名 江ノ島神社奉納演奏
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：川瀬露秋、萩岡松柯、萩岡由子
2. 発表標題 松竹梅
3. 学会等名 江ノ島神社奉納演奏
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 唄・箏 萩岡松韻 共演者：福原徹彦、萩岡松柯、萩岡由子
2. 発表標題 桜狩
3. 学会等名 国立劇場主催 第52回邦楽演奏会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 萩岡松韻, 富山清琴
2. 発表標題 「さらし」
3. 学会等名 和楽の美2021 『古の花』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩岡松韻, 花柳輔太郎, 今藤政子, 杵屋秀子, 三古谷裕, 上村和香能 他
2. 発表標題 「西鶴擬作 本朝永代湊」作詞: 杉本和寛(東京藝術大学音楽学部長)
3. 学会等名 藝大定期 邦楽 第87回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩岡松韻, 萩岡松柯, 鈴木厚一, 福原徹彦
2. 発表標題 「熊野」
3. 学会等名 邦楽鑑賞会 三曲の会 - 『平家物語』をたどる
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩岡松韻
2. 発表標題 「須磨の嵐」「布袋」「松竹梅」「BEZAITEN」(初演)
3. 学会等名 萩岡松韻 音を繋ぐ~山田流箏曲の彩~
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩岡松韻, 今藤政子, 川瀬露秋, 青木鈴慕, 上原真佐輝, 萩岡松柯, 萩岡由子, 福原徹彦 他
2. 発表標題 「桜狩」
3. 学会等名 NHKEテレ: 「須磨の嵐」「布袋」「松竹梅」「BEZAITEN」(初演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保田敏子, 野川美穂子, 長谷川慎, 長谷川愛子, 梅辻理恵, 中井智弥, 木場大輔
2. 発表標題 「古態の楽器の魅力」「飛騨組」「虫の音」「善知鳥」「狐会」「古道成寺」
3. 学会等名 第3回古態の楽器による地歌の会 古態の箏・三味線の魅力
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷川 慎 (Hasegawa Makoto) (00466971)	静岡大学・教育学部・教授 (13801)	
研究分担者	久保田 敏子 (Kubota Satoko) (10090200)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・名誉教授 (24301)	
研究分担者	野川 美穂子 (Nogawa Mihoko) (50218294)	東京藝術大学・音楽学部・講師 (12606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	萩岡 未貴 (Hagioka Miki) (10898886)	東京藝術大学・音楽学部・准教授 (12606)	
連携研究者	萩岡 由子 (Hagioka Yuko) (90991323)	東京藝術大学・音楽学部・助手 (12606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関